

令和2年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」
成果報告書

令和3年4月
一般財団法人全日本ろうあ連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般財団法人全日本ろうあ連盟が実施した令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

【現状と課題】

デフスポーツは競技毎に多くの団体が設立され活動をしているが、パラリンピックに比べ国内での知名度が低いため、スポンサーが獲得できず、デフスポーツそのものに対する理解や、競技活動や大会派遣等資金面での苦労が絶えない。

また、専門家不在、更新の育成ができない団体も多いため、ガバナンスコードを遵守できている団体が少ないのが現状である。デフスポーツへの国民への啓発、また、競技団体自身がスポーツインテグリティを保つため、ガバナンスコードについて一から勉強し、その支援を当団体が担うことが必要である。

【事業概要と目的】

①デフスポーツ団体連携推進

連盟スポーツ委員会が中心となり、デフスポーツ団体全体と連携してポータルサイトを作成し、活動の可視化を行うことで、デフスポーツの知名度や価値の向上につなげ、一般のスポーツ団体や企業、ボランティアとのマッチング及び協働につなげていく。

②ガバナンスコードによる体制強化

デフスポーツ団体が順守する必要のある「スポーツ団体ガバナンスコード（中央競技団体向け）」について、進捗状況の把握、管理、適合審査に向けての指導、改善を通し、団体運営力を高め組織強化をはかる。

③デフ競技団体の設立支援及び基盤強化

夏季デフリンピック実施競技のうち、団体未設置の競技（ハンドボール、射撃、レスリング、テコンドーの4競技）について、デフスポーツ団体の設立支援をはかる。中央競技団体（以下、NF）の協力を得ながら、まずはデフの選手の発掘を行い、数年後のデフスポーツ団体設立への道筋をつなげる。また選手やスタッフの少なく組織が脆弱な団体に対しても体制強化につながる支援を行う。

【事業の詳細と成果】

①デフスポーツ団体連携推進

現状、デフスポーツに関する情報が集約されたコンテンツが少なく、知名度の向上を主なコンテンツとした総合的なポータルサイトを構築し、デフスポーツ及びデフリンピックの啓発を行い、デフスポーツ競技団体及び支援者・応援者を繋げていく役割を持たせた。機能として、デフスポーツ競技団体同士での情報交換・連携も行えるよう、グループウェア機能も搭載している。

1. ポータルサイト／構築業者：株式会社シフト

Deafsportal（デフスポータル）-デフスポーツの総合ポータルサイト-

<https://deafsportal.com/>

※サイト名は「デフスポーツ」と「ポータルサイト」の造語。

<構成概要>

- ・デフリンピック・デフスポーツの紹介、啓発
- ・競技・団体紹介

- ・各種大会、ニュース（注目の選手等）紹介
- ・動画コンテンツ（YouTube とのリンク）
 - ※デフスポーツの魅力を引き出すような大きなバナー・動画コンテンツを配置可能
- ・パソコン・スマートフォンからも閲覧可能なレスポンシブデザイン
- ・文字の大きさ、色を変えられるユニバーサルデザイン対応
- ・各種SNSとも連携し、情報が拡散できるようシェアボタンを配置
 - ⇒上記サイトは、レンタルサーバーを契約し、独自ドメイン「deafsportal.com」を取得。全日本ろうあ連盟スポーツ委員会運営ではあるが、前面には打ち出すことをせず、一般向けに広く啓発できるものとした。

2. グループウェア／構築ソフト：NetCommons（CMS ツール）

デフスポ競技団体・スポーツ委員会の情報共有サイト

<https://group.deafsportal.com/>（関係者専用・ログインが必要）

<機能概要>

- ・カレンダー、ToDo リスト、ファイル共有、掲示板、アドレス帳
 - 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会及びデフスポーツ競技団体同士の情報交換はこれまでメールが主だったが、メールの数が多く、情報共有に限界を感じていたため、グループウェア機能を導入し、活用していく。

3. 「デフスポータル」開発担当者について

当初、「WordPress」等無料CMSを使ったコンテンツを検討し、複数業者（3者）に見積もり・提案依頼を行った。その結果、無料CMSを使って構築する業者が金額的には安いということがあったが、セキュリティ面や多くの開発実績があり、サポート体制も充実している株式会社シフトの独自CMS「SITEMANAGE」を利用することとした。

<https://www.sitemanage.jp/>

導入企業一覧 | CMS パッケージなら SITEMANAGE

<https://www.sitemanage.jp/works/corp.php>

- ・打ち合わせ・仕様決定に向けての株式会社シフトとの協議
 - 7月31日(金) CMSパッケージの説明（オンライン）
 - 8月17日(月) 構成案と価格の提案（オンライン）
（業者決定）
 - 9月9日(水) サイト構成についての方針打ち合わせ（事務所）
 - 9月30日(水) サイト全体デザイン確定、仕様詳細打ち合わせ（連盟事務所）
 - 10月12日(月) サイト詳細ページ構成協議（連盟事務所）
 - 10月20日(火) 最終仕様確認・レビュー、作業内容確認（連盟事務所）
 - 10月30日(金) コンテンツ仕様のための素材提出
 - 12月3日(木) サイト外側完成、操作レクチャー（連盟事務所）
 - ※その他、先方からの連絡ツールを使用し、詳細を再打ち合わせ
 - 2021年1月～3月 データ入力（業者・連盟事務局）
 - 2021年3月 サイト公開（随時更新）



「デフスポータル」トップページ デフスポ競技団体・スポーツ委員会の情報共有サイト

②ガバナンスコードによる体制強化

2020年度から開始された「スポーツ団体スポーツガバナンスコード」はデフスポーツ団体（JPC加盟団体）にも適用される。デフスポーツ団体の多くは組織運営や事務局体制が弱いとあり、ガバナンスコードの遵守についての組織力向上のため、専門家の支援を受け、手話言語によるヒアリング及び手話言語通訳を介した研修会を行いました。

1. 専門家の選定

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のガバナンスコード担当者と協議し、専門家を紹介していただいた。「ガバナンスコード」制定に深く携わった専門家でありTMI 総合法律事務所所属の小塩康祐弁護士に監修を依頼した。

競技団体により、特性（団体競技や個人競技、団体の規模等）が違うので、モデルを作るのは難しく、団体の実状を知り、数回に分けて講習会を行った方が良いとの知見をいただいた。

2. デフスポーツ競技団体へのヒアリング

デフスポーツ競技団体へ、「スポーツ団体ガバナンスコード」に対する理解や遵守状況、団体運営等についてのヒアリングをスポーツ委員が手話言語にて行なった。なお、コロナ禍であるこ

とを踏まえ、ヒアリングは全てオンラインで実施した。なお、事前に「Google フォーム」を活用し事前アンケートを行い、ヒアリングはそのアンケートに沿って実施した。

※「スポーツ団体ガバナンスコード」の対象である J P C加盟団体だけでなく、全体的な組織向上を目指すため、J P C加盟団体ではないものも対象としている。

<ヒアリング内容>※各団体1時間～1時間半程度

- ・ガバナンスコードへの理解度・遵守状況
- ・不明な点、遵守できない点について
- ・「適合性審査」「自己説明の公表」に向けて
- ・（ガバナンスコードにかかわらず）現在の競技団体運営において不安なこと

<スケジュール>20 団体にヒアリング () 内は対応したスポーツ委員の人数

- 9月10日（木）一般社団法人日本ろう者テニス協会（3名）
- 9月10日（木）一般社団法人日本ろう自転車競技協会（3名）
- 9月15日（火）日本デフオリエンテーリング協会（2名）
- 9月15日（火）一般社団法人本ろう者スキー協会（2名）
- 9月17日（木）一般社団法人日本ろうあ者卓球協会（3名）
- 9月17日（木）一般社団法人日本デフバレーボール協会（3名）
- 9月17日（木）一般社団法人日本デフバドミントン協会（2名）
- 9月17日（木）一般社団法人日本デフサーフィン連盟（2名）
- 9月17日（木）一般社団法人日本ろう者ボウリング協会（4名）
- 9月24日（木）一般社団法人日本ろう者水泳協会（2名）
- 9月28日（月）一般社団法人日本ろう者サッカー協会（3名）
- 9月29日（火）一般社団法人日本デフセーリング協会（3名）
- 10月5日（月）特定非営利活動法人全日本聴覚障害スキー指導員会（3名）
- 10月6日（火）一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会（2名）
- 10月6日（火）特定非営利活動法人日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟（3名）
- 10月9日（金）一般社団法人日本ろう野球協会（4名）
- 10月9日（金）日本ろう者ソフトボール協会（4名）
- 10月15日（木）特定非営利活動法人日本デフゴルフ協会（3名）
- 10月15日（木）特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会（3名）
- 10月19日（月）一般社団法人日本デフ陸上競技協会（4名）
- 10月27日（火）一般社団法人日本ろう野球協会（役員が多いため2回目）（3名）

<Google フォームを活用した事前ヒアリングシート>

2020/9/17 デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバナンスコードについてのヒアリングシート

デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバナンスコードについてのヒアリングシート

当連盟スポーツ委員会では、今年度スポーツ庁から「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者団体との連携及び体制整備への支援事業）」の委託をうけ、以下の3つの事業を行います。

(1)デフスポーツ総合情報ポータルサイトの構築
 (2)デフスポーツ団体のガバナンスコードによる体制強化
 (3)現在、国内に競技団体が存在しない、デフリンピック競技の選手発掘と団体設立に向けての準備

つきましては、JPC加盟団体の皆様には(1)と(2)について、JPC非加盟団体の皆様には(1)についてのみ、ヒアリングを行います。

事前の資料としてヒアリングシートをお送りしますのでお手数ですが回答のほど、よろしくお願いたします。

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会
 *必須

貴団体名を記入してください*

回答を入力

担当者名を記入してください*

回答を入力

担当者の連絡先を記入してください*

回答を入力

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QN3EysB2XDVI_g5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VfP6t1Q/viewform 1/8

2020/9/17 デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバナンスコードについてのヒアリングシート

【(1)ポータルサイトについて】
 ※JPC加盟・非加盟にかかわらず、全ての団体がご回答ください。
 ※目標（参考）：パラサポWEB | パラリンピック、パラスポーツの総合サイト - <https://www.parasasa.co.jp/vac/>

1. デフスポーツ総合情報ポータルサイト構築します（年末公開予定）。このサイトに対して貴団体からどのような情報を提供いただけますか？ *

大会情報
 合宿情報
 選手情報
 選手の写真
 会場や視覚的情報保障(ランプ等)の写真
 ボランティア・スタッフ募集
 スポンサー依頼
 取材協力
 提供できない、提供する情報がない

2. デフスポーツ総合情報ポータルサイトのスポーツ委員会・団体同士の情報共有としてどのような機能があれば便利に活用したいですか？ *

当連盟スポーツ委員会及びデフスポーツ団体同士の情報共有ができる機能（閲覧グループウェア機能）も持たせたい（団体内のみ公開）と考えています。

カレンダー（スケジュール）機能にて団体情報・大会情報の掲載
 掲示板機能での意見交換、情報共有
 To Do機能でのスポーツ委員会及び各団体同士での備忘録
 ファイル共有サービス機能（提出書類のひな形等）の活用
 アドレス帳機能での各団体の連絡先窓口把握
 特にな
 その他:

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QN3EysB2XDVI_g5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VfP6t1Q/viewform 2/8

2020/9/17 デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバナンスコードについてのヒアリングシート

【(2)スポーツ団体ガバナンスコードについて】
 ※ここからはJPC加盟団体のみご記入ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QN3EysB2XDVI_g5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VfP6t1Q/viewform 3/8

2020/9/17 デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバナンスコードについてのヒアリングシート

NF向けガバナンスコードの原則

【NF向けガバナンスコードの各規定】

原則1 組織運営等に関する基本計画を策定し公表すべきである。
 (1) 組織運営に関する中期戦略基本計画を策定し公表すること
 (2) 組織運営の強化に寄与する人材の確保及び育成に関する計画を策定し公表すること
 (3) 財務の健全性確保に関する計画を策定し公表すること

原則2 適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきである。
 (1) 組織の役員等の構成における多様性の確保を図ること
 ① 外務理事の自任割合（25%以上）及び女性理事の自任割合（40%以上）を確保するとともに、その確保に向けた具体的な方針を定めること
 ② 評議員会を置くNFにおいては、外部評議員、女性評議員の自任割合を確保するとともに、その確保に向けた具体的な方針を定めること
 ③ アスリート多岐性を図ること
 (2) 理事会を適切な規模とし、実効性の確保を図ること
 (3) 役員等の選任に代議性を確保し、透明性を高めること
 ① 理事が選任時の年齢に制限を設けること
 ② 重要な職務として10年を超えて担任することがないよう再任回数の上限を設けること
 (4) 策定した諮問委員会として役員候補者選考委員会を設置し、議決員に有識者を配属すること

原則3 組織運営等に必要の規程を整備すべきである。
 (1) NF及びその組織に他の組織と協働する場合は法令を遵守するために必要な規程を整備すること
 (2) その他組織運営に必要な規程を整備すること
 (3) 代表選手の公平かつ合理的な選考に関する規程その他選手の権利保護に関する規程を整備すること
 (4) 審判員の公平かつ合理的な選考に関する規程を整備すること

原則4 コンプライアンス委員会を設置すべきである。
 (1) コンプライアンス委員会を設置し運営すること
 (2) コンプライアンス委員会の構成員に弁護士、公認会計士、学識経験者等の有識者を配属すること

原則5 コンプライアンス強化のための教育を実施すべきである。
 (1) NF組織運営中のコンプライアンス教育を実施すること
 (2) 選手及び指導者向けのコンプライアンス教育を実施すること
 (3) 審判員向けのコンプライアンス教育を実施すること

原則6 財務、会計等の体制を構築すべきである。
 (1) 法律、税務、会計等の専門家のサポートを定期的に受けることができる体制を構築すること
 (2) 財務・経理の処理を適切に行い、公正な会計処理を確保すること
 (3) 国際競技会等の利用に関し、適正な使用のために定められた法令、ガイドライン等を遵守すること

原則7 適切な情報開示を行うべきである。
 (1) 情報開示について、法令に基づき開示を行うこと
 (2) 法令に基づき開示以外の情報開示も主体的に行うこと
 ① 選手選手権を自負選手選手権に関する情報を開示すること
 ② ガバナンスコードの遵守状況に関する情報等を開示すること

原則8 利益相反を適切に管理すべきである。
 (1) 役員、選手、指導者等の利益相反とNFとの間に生じ得る利益相反を適切に管理すること
 (2) 利益相反ポリシーを作成すること

原則9 透明制度を構築すべきである。
 (1) 透明制度を設けること
 ① 通報窓口を外部関係者等に設けること
 ② 通報窓口の管理責任、内部対応に関する役割を明確にすること
 ③ 通報窓口を利用したことを理由として、相談者に対する不利な取扱いを行うことを禁止すること
 (2) 透明制度の実行体制は、弁護士、公認会計士、学識経験者等の有識者を中心に整備すること

原則10 懲罰制度を構築すべきである。
 (1) 懲罰制度における禁止行為、処分対象者、処分の内容及び処分を受けるまでの手続を定め、周知すること
 (2) 処分執行を行う際は、中立性及び専門性を確保すること

原則11 選手、指導者等との間の紛争の迅速かつ適正な解決に取り組むべきである。
 (1) NFにおける意思や紛争について、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構によるスポーツ仲裁機能を利用できるよう自らの準備を進め、迅速かつ適正な解決を図ること
 (2) スポーツ仲裁の利用が可能であることを処分対象者に通知すること

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QN3EysB2XDVI_g5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VfP6t1Q/viewform 4/8

2020/9/17

デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバ(ナンスコード)についてのヒアリングシート

原則12 危機管理及び不祥事対応体制を構築すべきである。

(1) 有事のための危機管理体制を事前に構築し、危機管理マニュアルを策定すること

(2) 不祥事が発生した場合は、事実調査、原因究明、責任者の処分及び再発防止策の策定について検討するための調査体制を速やかに構築すること

(3) 危機管理及び不祥事対応として外部調査委員会を設ける場合、当該調査委員会は、独立性・中立性・専門性を有する外部有識者（弁護士、公認会計士、学識経験者等）を中心に構成すること

原則13 地方組織等に対するガバナンスの確保、コンプライアンスの強化等に係る指導、助言及び支援を行うべきである。

(1) 加齢規制の整備等により地方組織等との密接な関係性を明確にするとともに、地方組織等の組織運営及び業務執行について適切な指導、助言及び支援を行うこと

(2) 地方組織等の運営者に対する情報提供や関係者の実施等による支援を行うこと

1. 今年からスポーツ団体ガバナンスコードの適用が始まりました。すべての内容を理解していますか？

すべて理解している

分からない部分がある

ほとんど分からない

2. 1. の問いで「理解している」と回答した方へご質問です。現在、貴団体がガバナンスコードは遵守されていますか？

全て遵守している

一部遵守している

遵守できていない

3. 2. の問いで「一部遵守している」「遵守できていない」と回答した方へご質問です。何について遵守できていないと思いますか？原則1～13の中からご記入ください。また、その理由も併せて記載してください。

回答を入力

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QNGEYusB2XDxL_d5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VpRt1Q/viewform 5/8

2020/9/17

デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバ(ナンスコード)についてのヒアリングシート

4. 1で「分からない部分がある」「ほとんど分からない」と回答した方へご質問です。何について分からない部分があると思いますか？原則1～13の中からご記入ください。また、その疑問点も併せて記載してください。

回答を入力

5. 1で「分からない部分がある」と回答した方へ、どのような材料・資料があれば理解を深められると思いますか？

講師による説明会（手話言語通訳付き）

手話言語による動画での説明資料

日本語をかみ砕いた（簡単な日本語に変えた）文章による資料・マニュアル

ある団体を例にしたモデルケース

守るべきポイントを示したチェックリスト

専門家への（手話言語通訳を介した）相談

その他: _____

6. (すべての方に質問です。) ガバナンスコードについて不安点はありますか？

回答を入力

7. スポーツ団体ガバナンスコードでは団体に対して毎年「自己説明及び公表」と年に1度の「適合性審査」が求められています。これらに対して不明な点や疑問点をお知らせ下さい。

7-1. 毎年行う「自己説明及び公表」について

回答を入力

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QNGEYusB2XDxL_d5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VpRt1Q/viewform 6/8

2020/9/17

デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバ(ナンスコード)についてのヒアリングシート

7-2. 4年に一度実施される「適合性審査」について

※審査の実施予定年を教えても構わないという団体はご記入いただいても大丈夫です。

回答を入力

7-3. その他

回答を入力

8. (ガバナンスコードにかかわらず)現在の競技団体運営において、不安なことはありますか？

運営スタッフの人材確保

財政

規則や規程などの整備

会計制度面

選手の強化

選手の発掘

広報

手話通訳、メディカルなど専門スタッフの確保

N F との関係作り

その他: _____

回答が終了したら「送信」ボタンを押して下さい。ご協力ありがとうございました。

令和2年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QNGEYusB2XDxL_d5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VpRt1Q/viewform 7/8

2020/9/17

デフスポーツ総合ポータルサイト・ガバ(ナンスコード)についてのヒアリングシート

このフォームは（例）全日本ろうあ連盟 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSN21QNGEYusB2XDxL_d5cDzA8RuzdPc1sBMtE-VpRt1Q/viewform 8/8

<ヒアリングの様子>



<全体の傾向・課題>

- ・外部委員の選出（どこの誰にお願いしていいかわからない）に苦労している。
- ・デフは小規模団体なのに、聞こえる団体等と同じコードを適用するのは荷が重い。
- ・理事はボランティアなので手が足りない、女性委員がいない、委員の兼任の難しさ。
- ・専門家（弁護士・公認会計士等）や聞こえる人との繋がり（手話言語通訳等）。

<専門家との協議>

- ・ガバナンスコードを規制と捉えるのではなく、意識改革のきっかけにしてほしい。
- ・理解しているつもりでも実際の捉え方は団体によって違う。
⇒理念を伝え、質疑応答をメインとしたオンライン講習会を実施することも確認。

3. 「ガバナンスコード」についてのオンライン講習会

<研修のねらい>

- ・「ガバナンスコード」とは団体を縛るものではない。
- ・コードの遵守を今後の団体運営の基盤強化のきっかけと捉える
- ・事例に基づいてポイントを具体的に説明

（講師が統括団体のアドバイザーをしている関係で、個別団体の具体的な内容に関する質問は受けないこととした）

開催日時：2021年2月3日（水）、及び2月4日（木）（全2回）

方 法：オンライン（ZOOM）

講 師：小塩康祐弁護士

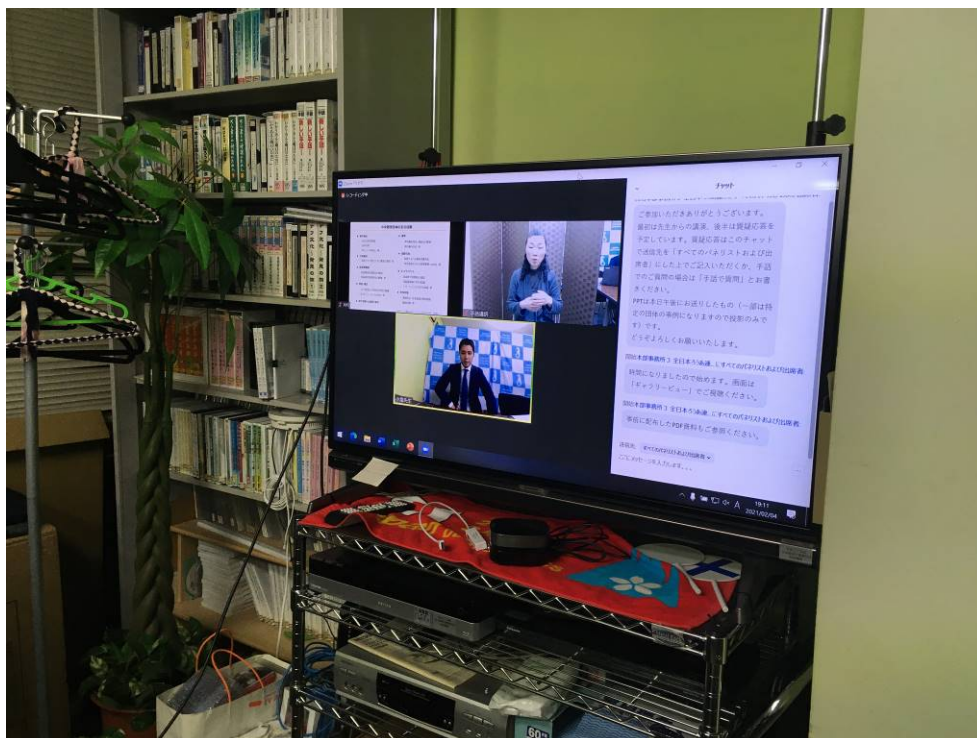
内 容：ガバナンスコードの原則・理念の説明、団体からの質疑応答

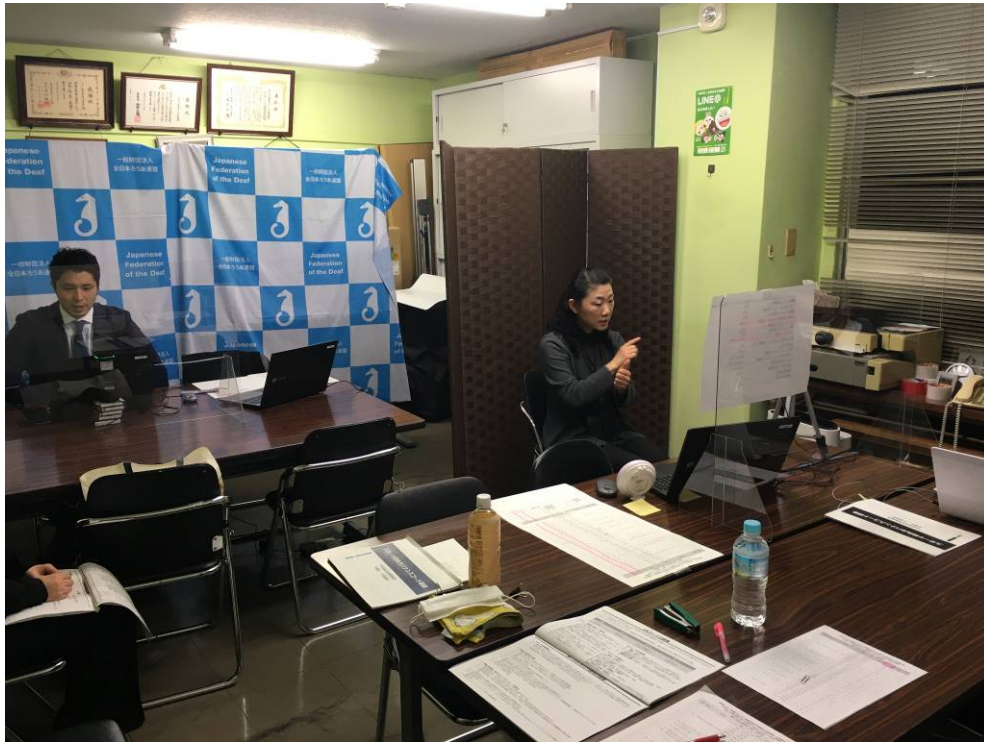
情報保障：手話通訳付

参加団体：2月3日（水）…12団体（24名）

2月4日（木）…7団体（13名）

<研修の様子>





<参加者からの意見>

- ・理事の構成（特に女性理事と弁護士や会計士などの選定と委嘱）に関する質問が多かった。
- ・講習会の内容は良かった。専門家の話が分かりやすい。
- ・自己説明の公表を作成中だが、具体的な目標が立てづらい。
- ・専門家との繋がりについて知りたい。
- ・今後もこのような講習を続けてほしい。

※資料と説明の手話言語通訳を同時に見るのが難しいという声があったので、1日目終了後、講師の許可を得てスポーツ団体の範囲で資料を共有した。

※オンラインでの手話言語通訳を付与しての配信については、資料の見せ方や専門用語の問題な

ど、今後の講習開催にあたって参考になった。

4. オンライン講習会のアーカイブ配信

当日参加できなかった団体や復習のために、講師の許可を得た範囲で、2日間の講習会の内容について、YouTube 限定、期間限定（2021年3月10日（水）までアーカイブ配信を行った。

2月3日（水）分…視聴回数 38回 2月4日（木）分…視聴回数 25回

③デフ競技団体の設立支援及び基盤強化

当初はデフスポーツ団体が設立されていない4競技団体について、NFと関係を作り、選手発掘に向けてのイベント開催・競技団体設立に向けて取り組むと計画に記載した。しかし、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期、また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、スポーツ団体（NF）もその対応に追われている状況、またコロナ禍でのイベントの開催は困難だった。

代替として、国内での「デフリンピック（デフスポーツ）」への関心を高める「デフリンピック・ムーブメント」を起こすため、関係者でオンライン会議を開催した。

1. デフリンピック・ムーブメント会議の開催

開催日時：2021年3月26日（金）

開催方法：オンライン（ZOOM） 情報保障：手話言語通訳付

参加者：「デフリンピック・ムーブメント推進マネージャー」9名（連盟各ブロックに設置）、連盟加盟団体の体育部長・デフスポーツ競技団体担当者 合計45名

<デフリンピック・ムーブメント推進の目的>

- ・2025デフリンピック日本招致及び2022年に開催される第24回夏季デフリンピック競技大会に向けて国民や仲間たちの関心を高め、大きなデフリンピック・ムーブメントを全国各地で発展させていく
- ・デフリンピック準備室及び連盟スポーツ委員会、推進マネージャーや推進委員による体制を構築する
- ・全国手話言語市区長会等、関係団体と協働していく

<主な内容>

- ・2021年1月18日（月）に実施したデフリンピック準備室会議の報告
 - ・第24回夏季デフリンピック競技大会（2022年5月、ブラジル）について
 - ・デフリンピック・ムーブメント推進について
 - ・連盟加盟団体及びデフスポーツ競技団体との連携体制について意見交換
- ⇒オンライン、かつ、限られた時間内だったが、関係者が手話言語を用いて情報共有・意見交換ができたことは大変有意義であり、デフスポーツ・デフリンピック啓発及び「デフリンピック・ムーブメントの推進」に弾みをつけることができた。

<今後の課題>

- ・コロナ禍が続く中でのNFとの連携、選手発掘⇒強化にどう繋げていくか。

<報告サイト>

デフリンピック・ムーブメント会議を開催（全日本ろうあ連盟 Web サイト）

<https://www.jfd.or.jp/2021/03/31/pid21797>

一般財団法人
全日本ろうあ連盟

デフリンピック準備室 久松室長

支援の広がり

政府
2020年2月3日の衆院予算委員会、議員からデフリンピック招致について質問され、安倍晋三首相から「国として、しっかりバックアップしたい」と答弁

東京都
2021年都知事選で小池知事が「2025デフリンピック日本開催」を公約、都議会の各党も、デフリンピック応援議員連盟を設立

デフリンピック支援ワーキングチーム
2020年3月に開催された議連総会で、「国としてデフリンピック日本開催を支援していく」という回答をいただいたため、今後、デフリンピック支援ワーキングチームにて、関係省庁も交えて議論していく」と答弁

手話を広める知事の会、全国手話言語市区長会、手話を広める知事の会や全国手話言語市区長会からは、デフリンピック日本開催の応援、ホストタウンへの協力を表明している

11

2025年デフリンピックを日本で!

「デフリンピック」の手話表現

1
2
3

スポーツ委員会 嶋本事務局長

2025年デフリンピックを日本で!

(3) 意見交換

スポーツ委員会 嶋本事務局長

スポーツ委員会 小椋委員長

室長補佐 倉野